

「JENESYS2016」中国大学生訪日団

参加者の感想（抜粋）

< 1号車（経済・経営） >

○来日前から、日本人は細かいところにも気を使い、何事においても真面目だと聞いていたが、日本に着いてすぐに実感した。まず入国審査で、写真と顔を何度も見比べ、パスポートの一字一句を指さし確認していた。ホテルの部屋のティッシュや、トイレトペーパーもきちんと三角折りにされていた。公衆トイレの清掃も行き届いており、全く異臭がないか、ほのかによい香りがして、トイレに行くのも楽しくなる。同じ班の学生がホテルに靴下を忘れたが、ちゃんと回収して届けてくれた。尊敬の念に駆られると同時に、私たちには改善すべき点がたくさんあると恥ずかしくなった。

日本では教育を重視していて、それも見習うべきだと思った。日本の教育では、書物による知識だけでなく、小学校の家庭科など、実際に自分で手を動かし、小さい頃から「自分のことは自分でやる」という意識を養うことを重視している。それに比べ、中国には自分の食事すら作れない大学生もおり、どうしたものか、と思う。社会情勢や専門分野について早くから体験するというのも日本の教育の特色だ。私たちが東京証券取引所でレクチャーを受ける前、ちょうど中学生らがレクチャーを受けていた。私は今回初めて、つまり大学2年生で証券について理解したが、彼らは中学生ですでに理解しているのだ。私は経済の専攻だが、学校の多くの本は解説が難しすぎ、かえってよくわからないが、証券取引所のスタッフによる1時間のわかりやすい解説で、証券の基本を理解することができた。知識の習得とは、詰め込み式で学ぶことではなく、体験を通して無意識の内に自身の能力として身に付けることなのだ。

○旅行というのは歩き回るのではなく、そこに滞在することである。落ち着いて、道行くいろいろな人を見てこそ、旅行の意義がわかる。

今回の訪問で最も影響を受けたのは、日本人との交流だ。1人目は、中央大学での交流で同じグループになった大学1年の女子学生。同じ専攻だったが、教育システムが異なるので、主に生活のことを話し合った。99年生まれの女子が一人暮らしをし、毎日自分で弁当を作っているのを知って、私は本当に恥ずかしくなった。それに比べて、中国の学生の自活能力は低すぎる。

2人目は、歓迎会で出会ったおじいさん。とても温和で愛らしく、中国語も上手だったが、私たちが日本語が少しできるとわかると、日本語で話しかけてくれた。きっと私たちの日本語会話能力を鍛えるためだろう。別れ際、中日問題が悪化するのはなぜだと思いと尋ねられた。私たちは沈黙してしまったが、おじいさんは優しい眼差しで、政府間と民間の関係は別だよという言葉をかけてくれた。そうだ！それこそ、私たちの訪日の目的だ、民間人同士の友好と友情。口に出して言うタイミングを逃し、小さな後ろ姿にどうにかさようならと言った。

3人目は、長崎大学訪問で出会った女性教師。パーマヘアで、きれいな、優雅な立ち居振る舞い、自信に満ちた様子は、日本人は英語が不得意だ、という私の固定観念を打ち砕いた。先生は、十数名の学生を相手に、一人の訪問者も疎かにすることなく、温かく迎えてくれた。日本語で話したら、また学生のために英語で話す。大忙しだ。

日本のハイテク、経済、歴史、文化は素晴らしく、ずっと尊敬していたが、もっと素晴らしいのは、日本人の自立したところ、温かい、優しい心だ。

< 2号車 (医学) >

○今回、日本に来て最も印象深かったのは日本がとてもきれいだということだ。以前にも、日本は環境がよい、街路がきれいと聞いていたが、百聞は一見にしかず。身を以って体験し、その素晴らしい管理力に更に感服した。環境がよいのは、ある程度その地理とも関係しているが、日本の環境面での努力を見落としてはならない。地下鉄の発達、ゴミ処理についての先進的な考え方と処理方法など、中国やその他の国も見習うべきだ。

次に、杏林大学医学部の訪問では、模擬授業を受け、日本の学生がどのように学校で勉強しているのか身を以って体験できた。同時に、先生の教授方法や考え方の違いも理解できた。医学生として、学校、教師、学生が違えば、キャンパスの文化、教育・学習方法も違ってくる、互いに学び、手本としてこそ、更に自分を高めることができると感じた。

最後に、両国の大学生同士のこのような友好交流はずっと継続していくべきで、そうしてこそ、共に発展していけるのではないかと思う。

○最も印象深かったのは、長崎大学医療研究所の原爆医学資料展示室の見学だ。日本は唯一の原爆被爆国である。その悲痛な事実を、私たちは歴史に深く銘記しなければならないが、その重い対価として、大量の被曝が人にもたらす障害の研究によって、貴重な資料が得られた。特に、被曝による腫瘍の発生、腫瘍の分類などの分子生物学分野で、多くの学術論文が発表され、その基礎データがこの分野の研究の発展を支えている。

第3の原爆被爆都市が発生しないことを望むとともに、腫瘍分子生物学メカニズム上の新たな進展を期待する。遺伝子の突然変異による腫瘍の発生および生物学的変化を深く研究すれば、腫瘍の臨床治療に理論的根拠を提供することができる。

< 3号車 (法学) >

○日本の都市建設は魅力に満ちている。ビルの高低差も秩序があり、色調も統一され、合理的な計画が行われている。また、道路も、車も、建物もちりひとつなく、驚くほどきれいだ。日本の空は青く、空気もきれいで、視界もよく、日差しが十分に入り、近代建築と古い建物が融け合っている都市は、本当に住みやすい。人も礼儀正しく、親切で、心優しく、一緒にいて居心地がいい。特に人々がお互いに信頼し合っていることは、すばらしい！東京も、京都も、滋賀も、日本が大好きだ。東京では、ハイテクで賑やかな商業地を味わった。京都では、日本人は伝統を深く思い、しっかり守っていると感じた。日本の文化の伝承は本当にすばらしい！古きよき都市！滋賀の温泉と日本料理は今までに味わったことのない心地よさで、日本人の生活を体験し、大満足！日本の大学、特に大学生との交流はとても楽しかった。私は彼らが大好きだ！日本人はよい人で、また日本に来たい、留学して深く勉強したいとまで思わせてくれた。キャンパスの施設は整っていて、カリキュラムも興味深いもので、本当に魅力的だった。日本の対外政策のセミナーを聞き、それまでの日本に対する印象に間違いがあったことを知った。中国は日本にとって大変重要であり、日本も中国にとって大変重要なのだ。日本は中国とWIN-WINの関係を求めている。実際、今回日本側がアレンジした日程を見ても、青年（次世代）が中日の友好の基礎を作り、お互いに信頼していく決心を固めることで、日本への悪い見方がある程度変えることができることがわかった。日本の国会や裁判所を見学し、両国の政治制度—立憲君主と人民民主独裁、司法—陪審員制度と合議制の裁判制度の違いを知ったが、中日両国はお互いに深く影響し合っており、全般的に大きな差はない。中国人にとっての日本は、生活するにも、ショッピングや旅行、交流をするのにもよいところだ！これから、一衣帯水の隣国として往来を進めていくべきだと思う。

○中国で日本の街中にはゴミ箱がなく、国民の環境保護への意識がとても高いと聞いていた。中国にはどの通りにもたくさんゴミ箱があるので、街中にゴミ箱のない国という状況が理解できなかったが、今回日本に来て、日本は大通りも路地も本当にきれいで、ゴミのポイ捨てがないのだと知った。それより驚いたのは、街中を走る車も全てきれいで、まるでさっき販売店で購入したばかりのようだ。国民が環境保護を大変重視し、真摯な環境保全意識を身につけていることを、私たちも見習うべきだ。

また、法政大学と龍谷大学の訪問活動を通して、外国の教育方法や学習環境には中国と大きな違いがあることを知った。中国では教師の講義と教室でのディスカッションが組み合わされているが、日本の大学では教師の講義がほとんどであった。また、是非とも触れておきたいのは、京都で見学した龍谷大学の学内環境が大変素晴らしかったことだ。仏教を建学の精神とし、人間育成を優先し、すばらしい学舎と閑静で和やかな学習環境を備え、本当に理想的な環境だ。中国の大学でもこのような先進的な学習設備や多様な学習空間、自習室、テレビ会議室、グループディスカッションルームなどを提供してほしい。

まとめると、今回の中日交流の旅の収穫は多く、日本の歴史ある文化を学んだだけでなく、日本の現状を理解できた。中日間の友好が百年変わらず続くことを祈り、全ての人に感謝したい。

< 4号車 (法学) >

○日中友好会館の招へいで JENESYS2016 の交流プロジェクトに参加できて大変光栄だ。

今回の訪問で最も印象深かったのは、日本の民意が司法の訴訟活動に取り入れられていることと、この制度によって一般人に法律意識が普及していることだ。

例えば、日本の裁判員制度、また、龍谷大学を見学した際、裁判員に選ばれた人（法律の基礎がない場合）に対して育成訓練を行うことを知った。このような方法で、専門的な司法の裁判の結果に、人に寄り添った普遍的な道徳観による判断を加えて、法律をより人に優しいものとし、且つ、このような方法で法律意識を高め、法律的常識を普及させることができている。また、裁判の傍聴では、たくさんの地元の人がすすんで傍聴に来ているのを知った。見た感じでは、皆、審判の手順や内容を理解し、熟知しているようだった。また、いろいろな年齢層の人がいた。

次に印象深かったのは、日本人のあらゆるものを敬う生活や人生に対する謙虚な姿勢だ。パナソニックのショールームに食卓の図があったのを覚えている。箸の向こうは自然界、箸の手前は人間界で、食事の前に「いただきます」と言って、自然からの贈り物に感謝する。また、日本人の服装は華美すぎず、黒、白、グレーなどシンプルな服装がメインで、食べ物も素材の味を生かす。このような、周りのあらゆるものを敬う控えめな精神は見習うべきである。

○上海の大学生の代表として、今回訪日活動に参加できたことを、大変光栄に思う。活動の内容はバラエティに富み、収穫が多かった。日本文化、日本の礼儀、経済分野の現状などを学んだ。その中でも、深く印象に残ったのは、京都地方裁判所の見学と嵐山散策だ。日本と中国の法律制度は似ているところや、異なるところがあるということ、裁判所の視察で、身を以て知った。嵐山の散策は、短い時間だったが、京都外国語大学の日本人学生のガイドで見学できたのは、とても有意義だった。中日両国の大学生の友情を深めることができたし、互いを理解するための大切なプロセスで、これから両国が共に友好的に発展していくための種をまくことができた。

< 5号車（経済・経営） >

○1週間の訪日交流学習はあっという間に過ぎた。期間中、東京の中央大学、熊本学園大学を訪問し、本田技研工業株式会社を視察し、熊本城、熊本県立美術館を見学して、歌舞伎文化などを体験した。一つの国を深く理解するには、1週間という時間では全然足りないが、1週間で多くのことを経験し、全てが深く印象に残った。具体的には、以下の点にまとめられる。

1. 文化の継承。熊本地震で、歴史的文化遺産である熊本城が損壊したが、熊本県や県民は20年かけて元の古城を完全に再建する予定で、その時間には、文化遺産の保護や継承についての考え方が表れていることは言うまでもなく、私たちが自省し、見習うべきだ。
2. 物事への対処。まず明確なアクションプランがあり、時間の観念が強く、管理学上のジャストインタイム（JIT）管理モデルを実際に応用し、仕事の能率を向上させている。中国の企業もその成功経験を吸収して、企業の発展に尽くすとよいかもしれない。
3. 工場管理。本田の工場を見学したが、流れ作業のライン上の機械が、作業員の背の高さに合わせて自動的に調整される、勤務交代時にはラジオ体操があるなど、近代管理学の人を主体とする管理モデルを体現しており、人の能力をより発揮させることができている。
4. 中央大学と熊本学園大学の学生との交流で、日本の学校の教育スキームは中国と違い、学生の実践能力を養うことを特に重視していて、学生は授業外に、多くの時間を好きなバイトに割き、社会経験を積んでいることを知った。中国の学生は自省し、理論と実践を結びつけることを重視して、自身の総合能力を高めるべきだ。
5. 環境保全。日本はどの道もきれいで、人々の環境保護意識が高い。私たちが反省し、見習うとともに行動しなくてはならない。

まとめると、今回の訪日交流は収穫が多く、感じるが多かった。

○今回の訪日では、主に東京都と熊本県を視察した。初めて日本に来て、異なる風土と人情を感じた。三つの方面から今回の交流で感じたことを述べたい。

経済面では、日本の都市建設と居住環境はシンプルで快適だ。地理的な特殊性により、日本は地震と火山が多い国だが、自然災害に遭っても、日本人は積極的かつ楽観的に捉えて働き、生活している。熊本県の本田技研工業株式会社を見学した際、近代化された生産ラインで、作業員は白い作業服を着て、各持場で整然と組み立てや検査などの作業を行い、スマートロボットと作業員の手作業が見事に組み合わせられ、作業効率を大きく向上させていた。日本が時間と能率を重視している国だということが見てとれる。だからこそ、日本の経済成長のスピードは世界のトップを占めているのだ。

文化面では、日本は伝統文化をととても重視し、守っている国だ。地震で損壊した熊本城だけでなく、100年の歴史をもつ八千代座も、修理や建替えの際、もともとある材料を再利用し、もう使えない材料さえも別途保管して、重要文化財として保存している。また、数日の滞在で、日本人が大変礼儀を重んじていることを知った。会う度にお辞儀して挨拶し、別れの際は手を振って見送る。電車で会った見知らぬ人も笑顔で挨拶してくれる…こうしたことで、日本人はフレンドリーで温かいと感じた。

エコロジーについては、本当に私たちは日本を見習い、手本にすべきだ。都市の至るところがきれいできちんとしていて、ゴミの分別も成果を挙げている。本田技研の作業員は白い作業服を着ているが、1日着ても汚れていないのは、皆が自分たちの作業環境をきれいに保つよう注意しているからだ。日本の子供も小さい頃からゴミを分別する習慣を身に付けていて、環境保護に役立っているだけでなく、資源も節約し、中国が環境に優しい社会を建設するために大変参考になった。